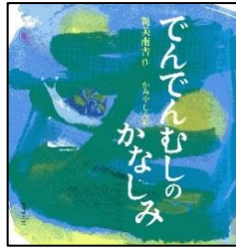


としょかんがすすめる夏休みの本（3・4年向き）

『でんでんむしのかなしみ』

新美南吉／作
大日本図書（913ニ・デ）



ある日、でんでんむしは気がつきました。からの中に、かなしみが、いっぱいつまっていることに。そして、おともだちのでんでんむしに、その話をしに行きます。他にも、「里の春、山の春」「木の祭り」「でんでんむし」という童話が入っています。

『ポップコーンの魔法』

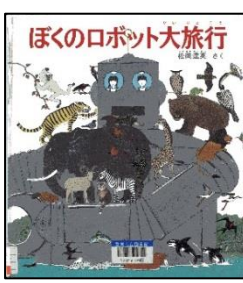
たかどのほうこ／作
あかね書房（913タ・ポ）



花子はお話が大好きな女の子。公園のブランコをこぐと、すてきな女の子、ハンナになることができるのです。いつものようにブランコをこいでいると、となりで知らない女の子もブランコをこいでいることに気がつきました。女の子むけ。

『ぼくのロボット大旅行』

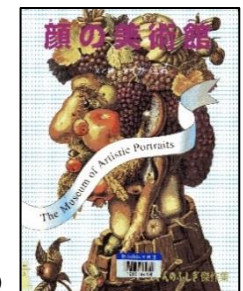
松岡達英／さく
福音館書店（Eマ・ボ）



空をとべて、海にももぐれるぼくの作ったロボットに乗り、世界一周の旅に出よう！北極、北米、南米、アラスカ、アマゾン、オーストラリア、アフリカ…深海や宇宙まで旅する楽しい絵本。

『顔の美術館』

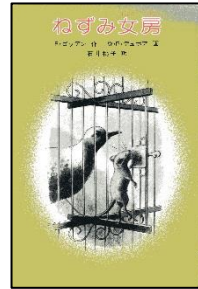
タイガー立石／文と絵
福音館書店（701カ）



画家はなぜ「顔」を描くのか？ゴッホやピカソなど、たくさんの有名な画家たちは、どんなふうに顔を描き、何を表現したかったのか、考えてみよう。表紙はアルチンボルドという画家が描いた横顔です。

『ねずみ女房』

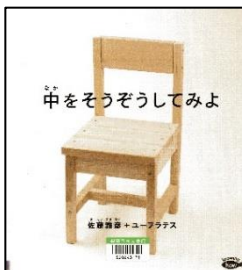
ルーマー・ゴッテン／著
石井桃子／訳
福音館書店（933ゴ・ネ）



何がほしいのかわからないけれど、まだ、今もっていない何かがある、と思っているめすねずみがいました。あるとき、はとに出会い、窓の外の世界の話を初めて聞いたねずみ。ねずみがほしかったものとは…？

『中をそうぞうしてみよ』

佐藤雅彦／作 ユーフラテス／作
福音館書店（Eナ）



いすには、くぎが何本使われている？ぶたのちょきんばこには、コインがどんなふうにならんでいる？ページをめくると、エックス線写真でその答えがわかりますが、めくる前に……中をそうぞうしてみよ。

『ネズの本通りのがらくたさわぎ』

リリアン・ムーア／作
山下明生／訳
童話館出版（933ム・ネ）



その朝、新聞にこう書いてありました。「おたくに、がらくたはありませんか？家の中をさがしてみましよう。いまこそ、きれいにするときです！」こうして、その日がネズの本通りの“がらくたいっそう”の大そうじの日となりました。

『食べ物で見つけた進化のふしぎ』

盛口満／文・絵
少年写真新聞社（467タ）



食卓にならぶたくさんの料理。どれも元は生きものです。いつもと少しちがう方法で、生きものたちの進化のふしぎを食べ物から探していきます。中には、口にに入れるのに勇気がいるものも…！

『キツネ和尚と大フクロウ』

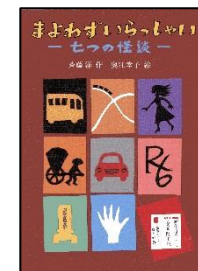
富安陽子／作
あかね書房（913ト・キ）



新しい担任の山野先生がやって来た！でも、どこかおかしい。武二は仲良しのキツネ和尚に相談してみることに…。キツネや大フクロウが人間に化けて登場し、武二の学校は大さわぎ！男の子にもおすすめの、楽しく読める一さつ！

『まよわずいらっしゃい』

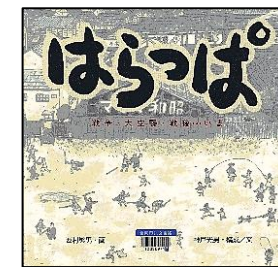
斉藤洋／作
偕成社（913サ・マ）



子ども用の本と、あなどってはけません！この本には、「乗り物」をテーマにした、あっとおどろく怪談が7話入っています。シリーズに、「ひとりであいらっしゃい」「うらからいらっしゃい」もあります。こわ〜い話が好きな人に。

『はらっぱ』(戦争・大空襲・戦後…いま)

西村繁男／画
神戸光男／構成・文
童心社（E二・八）



町のかたすみにある、小さなはらっぱ。戦争、大空襲、戦後、そして…いま。はらっぱを通し、昭和9年ごろからの、東京の下町の60年間のうつりかわりが描かれています。

『猫山』

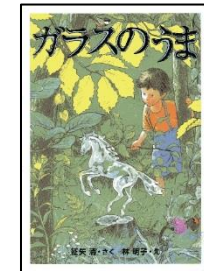
斎藤隆介／作 滝平二郎／絵
岩崎書店（Eタ・ネ）



山でまよった三平がたどりついたのは、猫ばばの家でした。表紙は少しこわいですが、ただ、こわいだけの話ではありません。猫ばばに立ちむかうシーンは迫力満点で、三平と子猫たちの強さを感じることができます。

『ガラスのうま』

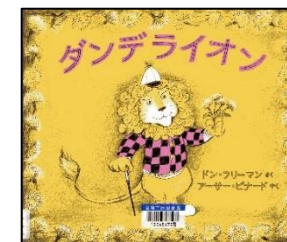
征矢清／さく
偕成社（913ソ・ガ）



ガラスのうまと遊びたくて、たまらないすぐりは、うまを庭に出そうとしてうまの足を折ってしまいます。テープでくっつけると、うまはすぐりの手をすりぬけ、ガラス山にむかって走って行ってしまいました。

『ダンテライオン』

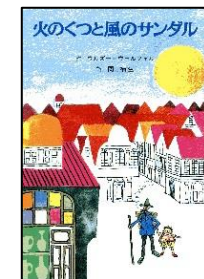
ドン・フリーマン／さく
アーサー・ピナード／やく
福音館書店（Eフ・ダ）



ジェニファー・キリンのティーパーティーに招待されたダンテライオン。うれしくて、思いっきりおしゃべりをして、パーティーに行きますが…。

『火のくつと風のサンダル』

ウルズラ ウェルフェル／作
関楠生／訳
童話館出版（943ウ・ヒ）



でぶでちびでびんぼうなチムは、自分ではない他の誰かになりたいと思っていました。お父さんは、そんなチムの誕生日に「火のくつ」という新しい名前をプレゼントします。そして、チムとお父さんの夏休みの大旅行が始まります。

『アーヤと魔女』

ダイアナ・ウィン・ジョーンズ／作
田中薫子／訳
徳間書店（933ジ・ア）



毎日こき使われるのが嫌になったアーヤは、黒ネコのトーマスに助けをもらい、魔女に立ちむかうための呪文を作る。カラーのさし絵で読みやすいファンタジー。かしこくて強い女の子、アーヤのお話。